

われ、我々はその恩恵を享受してきました。今後

も科学技術の先進国にして大国である日本が、核廃棄物の処理技術も含め、人類にとって必要な分野の実践と研究から撤退することはありえません。

柏崎・刈羽の周辺で、原子力発電関連の仕事に就かれている方々、さらにその方々の消費によって生計を立てている方々、原子力と共に生きようとはるか昔に決断し今に至る県内の自治体がありま

す。柏崎・刈羽の再稼働を認めないという事は、「直ちに当てもなく、暮らし向きを考え直しなさい」と言うことと同じです。これは一地方議会議員の分を超えた裁量と考

えます。人類は効率を求め、シエールガスやメタンハイドレートなど、まだまだ化石燃料を使い続けることでしよう。安全対策を施した上でなら、今在って、効率が良く、しかも二酸化炭素を排出

しない、原子力発電を使わぬ手はないと思います。安全の基準は設定できます。ですが、安心の基準は心の問題です。各々が「覚悟」持ち、今を歩まねばなりません。

## 反対討論 (要約)

師田 保

反対討論をさせていた

だきます。確かに、古くなった原子力発電所には危険を感じるが、柏崎・刈羽原発は、対応年数に至った訳ではなく、古くはありません。また現在、電力が

たりない状況にあります。

そんな中、柏崎・刈羽周辺自治体には、そこに勤める人たちがいます。そしてそれを支え関係する人たちには、「ぜひ(原発を)稼働してもらいたい」との大きな望みがあります。

湯沢にあつて、危険を感じるのは理解できるが、国の基準を満たすなら稼働は認めるべきだ。電気

なくして生活は成り立たない。柏崎・刈羽原発は、時が来れば廃炉にもなるだろうが、現在電気が足りない状況下では、稼働を認めるべきと思うので、反対討論をさせていただきます。

務棟」と「フィルター付きベント」が設置されるのは「3年先」なのです。

これでどうして「事故を防止できる」と断言できるのでしょうか。

首相が、繰り返し述べたのは、「国民の安心が脅かされる」「日常生活や経済活動」が混乱するという、脅しの言葉だけでした。

しかし、そもそも、これらの問題と、原発再稼働とは、てんびんにかけてよい問題ではありません。

ん。加えて、電力不足などの問題についても、その具体的根拠は何ら示されていません。

さらに、「夏場限定再稼働」だけでなく、今後

も運転を続けると踏み込みました。これは、「原発は基幹電源」として、利用し続けたいとする財界の圧力と、原発再稼働を願う電力会社の要望に屈したものと云わざるを得ません。

国民世論の圧倒的多数は再稼働反対です。今こ

そ脱原発の姿勢を明確にして、原発なしでも成り立つ日本の姿を全力で追い求めるときです。安全が確保されたからとか、もうあの様な地震は来ないだろうから、という安全神話から、目を覚ま

さなければいけないと思います。

湯沢町議会が、この発議を可決して、脱原発の世論づくりの一助になる事を願って賛成討論とします。

活を守る」ため、大飯原発の再稼働を決断しましたが、生活を守る以前に「生命を守ること」が一番大事と私は思います。

## 賛成討論 (要約)

高橋 綾夫

私は高度成長の中で、

原発エネルギーの恩恵を受けてきました。過去に広島、長崎の原子爆弾投下、ビキニサンゴ礁での漁船被ばく、そしてチェルノブイリの原発事故があり、それぞれ悲惨な出

来事と思いつながらどこかに他人事と思う気持ちがありました。

しかし、今回の福島第一原発の事故で身近に放射能が検出され、またこの事故を機にこれら過去の出来事による放射能被ばくが、本人だけでなく子孫の遺伝子にまで影響を与えている現実が分かりました。

野田首相が「国民の生

会議員として、私は子孫に申し訳が出来ないような決断は出来ないという考えから、柏崎刈羽原発の再稼働に反対する今回の議案に賛成致し

ます。